

特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり

特別支援教育の観点を取り入れた授業の目指すところは、学級の全ての子供たちが、「分かった!」「できた!」という喜びを実感できることです。その授業づくりの第一歩は、子供たちの実態を把握することから始まります。実態把握に基づいて、支援を考えていくこととなります。例えば、「この子は授業中きょろきょろしていて、集中することが難しいな」「でも、絵や図はよく見ているから、大事なことは掲示物にして黒板に貼るのがいいかな」というように支援を考えていきます。

しかし、実態把握が重要であることは分かっているけれど、自分一人の行動観察だけでは、根拠もないし自信がない…という先生もおられるのではないのでしょうか。そういうときには、当センターの特別支援教育部が作成した「アセスメント分析パッケージ」をお勧めします!!(詳細については、平成28年度第2号の羅針盤を参照してください。)

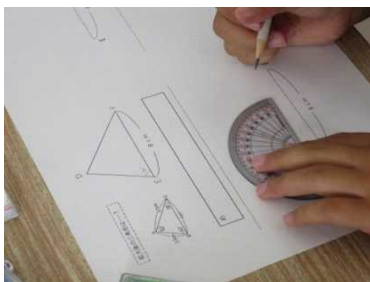
今回は、アセスメント分析パッケージを活用している小学校、中学校の実践の一部を紹介します。

小学校

A小学校では、アセスメントシートやプレテストの結果、行動観察等から**多面的に**児童の実態を把握して、授業づくりを行いました。

例えば、アセスメントシートの結果から、学級全体として聞いて理解することや記憶することに困難さがあることが分かったので、「これから大事なことを言うよ」と前置きしてから話したり、活動が停滞している児童に、個別に再度声をかけたりする支援を行いました。

このように、**実態に合った支援を行う**ことで、児童が生き生きと学習に取り組む姿が見られるようになりました。



書く量や情報量を調節したワークシート

中学校

B中学校の校内研修では、授業を参観し合った際の生徒の行動観察とアセスメントシートの結果を活用して、生徒の実態把握を行いました。**複数の視点**から学級や気になる生徒の実態を把握することができたので、支援に結び付けやすくなりました。また、支援を考える際には、アセスメントシート分析パッケージで表示される支援内容が、大変参考になったようです。学級や個人にどのような困難さがあり、どのような支援をするのかを**共通理解**したことで、どの授業においても同じような支援を行うことができるようになりました。



生徒の実態や支援を考える校内研修の様子

ここでは、紹介しきれない具体については、平成28年度教育研究発表大会で発表しますので、ぜひ御参加ください。お待ちしております。

平成29年2月19日(日)

岡山県総合教育センター開所10周年記念式典・記念講演会及び平成28年度教育研究発表大会

☆教育研究発表Ⅰ(13:25~14:25)

「通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりに関する研究」

(担当・特別支援教育部)